

---

# チートな悪魔

みや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チートな悪魔

### 【Nコード】

N2640V

### 【作者名】

みや

### 【あらすじ】

神なのに働かなかつたら人間界に落とされちゃいました。てへ人間界で働くことになったラサは仕方なくお金を稼ごうとするがあれだね、だるいね  
ちなみにチート系主人公です。嫌いな人は戻るをお勧めします。

## 墮とされた神（前書き）

処女作じゃ無いけど糞みたいなシナリオに逆に凄い！と思うほどw  
文才無さ過ぎだって、あはははは

## 墮とされた神

俺は神だ

まあ正確には「神だった」が正解だが  
一体全体どうなってるやら……

目の前に広がっているのは

人間界だった

『聞こえるか、ラサ』

頭の中に直接声が響いてる

ついでにラサとは俺の名前だ

本名はラサ・クロス

まあそんなことは置いといて

『おい！何で俺が人間界にいるんだよ！』

一番気になる質問をする

『ラサ、最近のお前はだらけ過ぎだ』

『それが？』

何言ってるんだ？こいつ

俺は神だぞ？だらけて何が悪い

『お前はもう忘れたのか？』

忘れた？何を？

『俺が何を忘れたんだ？』

『はあ、お前は1ヶ月前に言ったことを忘れたのか？』  
はあ？

1ヶ月前？

何かあったか？

全く思い出せないのだが……

うるせーな！俺が働きゃいいんだろ！信用ねーなら俺が1ヶ月働かなかつたら人間界だろうがどこだろうかに落とせばいい

ふと頭の中に自分の台詞が……

『つつつつ！』

『思い出したか？』

『何が望みだ？』

『いや、お前に何も望んでないから。簡単に言つと人間界に百年追放つてことだ』

『はあ？何で俺がこんなとこにいなきゃならんだ！』

ブチッ

切りやがった……

通信切りやがったな！

神は死なないから百年は短いんじゃないかって？

イヤ無いから

不老不死でも長いもんは長いから

ああーうぜー

まじ何であんな事言つたんだ？

イライライライライライライライライライライライライライライライライ

って感じになってるところ殺気を感じたのかドラゴン様がいるではありませんか……

GYAAAAA

と叫びながら襲って来るじゃありませんか  
(そっついや最近狩りもしてなかったな)

まあこの可哀想なドラゴン君をストレス発散の道具にしますか  
頭の中でシミュレーションをしていると何かだるいと言つことに気がついた

俺は愛用の剣を使い一閃

はい、終了

つか予想より弱いな

神界のドラゴンが強いだけか？

まあどうでもいいが

今気づいた

金が無い

やられた

あいつら俺を人間界で働かせる気か？

くそっ！

大抵の物は創れるが食べ物作れない……

取り敢えず城下町にでも行くか

一応神だし人間界の地形は簡単に覚えてる

テレポート

はい、到着

あっさりしすぎだつて？

いやいやあそこ神の神域とか謎の場所だからな出るのに少なくとも  
三話にかかる。

つーわけでテレポートを使いました、てへ

べ、別に怠かつたんじゃないヨ

取り敢えずギルド探すか……

## 墮とされた神（後書き）

携帯投稿だるいね。長くしよつかなと思っただけだるいのでこのまま載っけます。

## 初めての依頼（前書き）

今回はPCからの投稿です。内容はすこし長くなったけど駄作には変わらないぜ（キリッ



## 初めての依頼

なんで神なのに人間の世界でギルド探してるんだろ……  
はあゝ

心の中でため息が漏れる

さうとギルドはどこかな？

ちゃちゃつと大金稼いで残りの時間を楽しめますか

実際こんな機会でもなければ人間界なんて絶対に来ないし……

まあ来たからには楽しもう

なんて考えていたらギルド発見！

さっそく中に入るか

ガチャッ

ドアを開けるといかつい人たくさんいるなゝ

別にいかつくない人もいるが

でもぱつと見どうもいかつい人がインパクトでけえ

まあそんなことはどうでもよくてギルドカード発行しなくちゃ  
受付に向かい

「すみません、ギルドカード発行してもらえませんか？」

「はい、ではこちらにお名前と住所をお書きください」

そついつて差し出される紙を見て困った

住所か……

この世には無いんだが……

まあいいか、適当に書きちゃえ

「こちらがギルドカードです。紛失した場合、再発行する際に銀貨5枚必要なのでくれぐれもお気をつけ下さい。ランクについての説明しますか？」

「いえ結構です」

流石にこれでも神なのだ

そのくらいの事は知っている

しかもぶっちゃけランクはあまり関係ないし……

ただ自分より上のランクの依頼を30個受ければ平均のランクにつくランクが上がると特典ボーナスがある

というぐらいかな

今の俺のランクはF-であり最低ランクだ

さて早速依頼でも受けようかな？腹減ったし

俺は依頼が張り出されている掲示板を覗き込み一番報酬が高いものを選んだ

その内容はSSS+（最高ランク）であつたがぶっちゃけ俺にはあんま関係ないし

内容はこの世（つまり人間界）で貴重とされてる鋼ドラゴンの内臓をとってこいというものだった

鋼ドラゴンの内臓は薬に使われたり超高級レストランで一年に5度振舞われるだけというかなり貴重なものだった

「これを受けたいんですが……」

「これですか！？お言葉ですがF-の方には無理かと」

「大丈夫、大丈夫」

この依頼を受ける受けないで長くなったが粘ってやらせてくれる事にした

さてとテレポートと

いるねえ、いるねえ

そう今俺は鋼ドラゴンの村(?)らしきここに来たのだ

さてと一番内臓に被害がでないのは何だろ？

やっぱ風で切り刻むか？

よし！それでいこう！

瞬間鋼ドラゴンから一斉に血が吹き出した

無詠唱の魔法、それも上級魔法だ

まあ本来ありえないのだが、まあ神だし？

「さてと、内臓 内臓」

ふう

これで三十体はいた鋼ドラゴンの内臓を手に入れたわけですよ

ふふふ、楽勝楽勝

さてとテレポート

「こんなに……」

「ありえん……」

「嘘だろ……」

などと聞こえたが無視

受付に置くと凄かったね

なんかギルドの偉い方まで押し寄せちゃってね

なんか会議みたいの開き始めちゃったよ

それから数十分

「す、すみません！まさかこんなに大量に持ってくるとは思わなかった  
たので報酬の準備が出来てません！」

「で、いくらなの？」

「は、白金貨10枚です」

ここでお金についての解説です

白金貨1枚が金貨100枚

金貨1枚が準金貨60枚

準金貨1枚が銀貨50枚

銀貨1枚が準銀貨40枚

準銀貨1枚が銅貨30枚

銅貨が一番価値が小さいお金である

ちなみにこの国の成人男性が一生で稼ぐお金は約金貨50枚らしい  
日本円に換算すると金貨50枚＝2億円だね

つまり白金貨10枚はかなりの大金である

あれ？

100年遊んで暮らしてもお釣りがでるような……

よし！ぐーたらするか

と思ったら

「すみません、今は白金貨1枚しか渡せませんがよろしいですか？」

「ん？OK、OK。あとできれば小銭にしてくれるかな？」

「かしこまりました」

そして大金を手に入れた俺は食住を満たすためにそこのレストランで昼飯を食ってから不動産屋さんに行く  
さあて家を買えばこっちのもんだ

「どんな家をお探して？」

「どんなところでもいいけど、取り合えず一番速く住めるところで」

「値段が高いですがよろしいですか？」

「いいですよ」

とこんなどーでもいい話は済ませた  
後は百年たつまでのんびりといこうかな？  
食って寝て食って寝て……

太りそうだな……

しかも暇そうだな

どこかで暴れたいな

まあいいか

つかさ、俺神だから神と人間の力の差を教えてやるか？

そんなことを考えていた

まだ住めないのホテルに泊まるのだがね

暇だし明日もギルド行くか

もつと金を手に入れて世界旅行でもすつか

それ名案じゃね？

はい、この意見採用  
世界回るんだったら白金貨100枚は欲しいな  
よし、やるか

そんなことを考えながらいつのまにかに俺は寝ていた

チュン チュン

眩しい……

もう朝か

なんてテンプレ通りな朝の目覚め方だろう

飯を食った俺は今ギルドに向かっているのであった

俺が入ると従業員が金の催促だと勘違いしたのか皆一斉に頭を下げ

「誠にすみません！まだお金の準備ができていません」

「いや金の催促じゃなくて依頼を受けに来たんだが」

俺がそういうとホッとしたような表情とまた大金を稼ぐ気かという

不安の顔になっていた

見ている分だと実に面白い

さてと何を受けようかな？

見てみると「ゴブリンの始末」というのがあった

ランクはB+ 報酬銀貨30枚

よしこれにしよう

昨日と同じく手続きをし早速狩に出る

レポートの移動も飽きたしな……今日は飛ぶか

ギルドをでるなりいきなり飛翔魔法をつかい目的地をめざした

うわーいるねえ

たくさん、群れで

なんであんなに固まってるんだよ……

今回は楽勝か？

と思い空中からしたに向かい光の粒子が渦になりやつらをまとめて  
八つ裂きにした

終わったか？と半ば確信し見てみた

たしかに全滅している

全滅してるんだがまたどこからとも無く現れてくる

なんでやねん！

なら押しつぶすか

グラビティ・ゼロ

かなりの広範囲の敵を押しつぶす魔法だ

確かに効いている

だがまた現れる……

流石にきりががないな

原因解明に挑みますか

サーチ

近くにある目に見えない敵や物を探す魔法

すると反応あり森の影に隠れていて目視はきついが今俺には見えて  
いる

近くによるとレプリカ生産期がおいてあった

なんでこんなもんが落ちてるんだよ

まあ破壊するが

さてとこれでもう出てこないだろ

俺は剣を構えゴブリンの群れに向かって一振り

するとゴブリンたちは体の上と下が真つ二つ  
そして消えていく  
なるほど

レプリカだからか

本来ゴブリンを殺すと死体が残るのだが今は消えている

さてと帰りますか

もちろんテレポートで

飛翔魔法は？って？飽きた

さて狩ってきた証拠を見せ依頼達成した

ふう今日も人間界は平和だな、多分

さてと予想より時間かかったが次の依頼に取り掛かりますか

次の依頼は「岩石撤去」

ランクはあんま関係無しで力があるもの 報酬準金貨1枚

さて毎度おなじみテレポートで移動

そこには土砂崩れでもしたのか岩がごろごろ転がっていた  
これをどこに運ぼうかなと思いい結局奥に置いとくことにした

ウイズ・ウィング

物体に羽をつけそのまま特定の場所に移動させる魔法  
こんな魔法を使ったおかげで三十分たらずに終わった

さてと、報酬報酬

よし！金が手に入った

が、ぶつちやけ少ねえ

なんか高いの受けるかと思いい掲示板を見るとあつたよ面白そうな依



よし、頼が  
これを受けるか

## 初めての依頼（後書き）

3000文字だって短いねw  
まあしかたない  
だって文才が無いんだもん！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2640v/>

---

チートな悪魔

2011年10月9日10時12分発行